NPO 法人千葉自然学校 ニュースレター

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2023 夏
vol. 34



今年も泳ぐ飛び込む乗り越える！アドベンチャラスなアクティビティ「コーステアリング」実施します。
浮かんで波に揺られたり熱帯魚たちを観察したり楽しいこと盛りだくさん！（南房総市　大房岬自然の家）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

千葉自然学校は、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいます。

も　く　じ

□不易流行 …2
□ろくすけ日和 …3
□千葉シニア自然大学 …3
□現場レポート …4
□受託・ネットワーク事業 …5
□千葉県立君津亀山青少年自然の家 …6～7
□南房総市大房岬自然の家
　千葉県立大房岬自然公園 …8～9
□ちば・体験活動ネットワーク
　団体紹介・会員校フィールド紹介 …10～11
□千葉自然学校スタッフ紹介 …12

不易流行

理事長　久保田康雄

新型コロナの感染症法上の位置づけが５月８日に「２類」から季節性インフルエンザなどと同じ「５類」になりました。電車の中ではまだマスクをしている人たちを多く見ますが、次第にコロナ前の状況に戻っていくのだと思います。今年度は、今まで以上に多くの体験活動が行われることを願います。

自然体験活動の効果については、これまでに多くの調査研究から言及されていております。例えば、自信や自己効力感などの「自己肯定感」が高まる、協調性や忍耐力が育まれる、自ら考え自ら判断し自ら行動できる「生きる力」が身につく、共感性や感受性などの「感じる力」が高まる、また、「あきらめない力」「チャレンジする心」が涵養される、規則正しい生活が身につくなどです。

さて、自然体験活動の期間によって前述のような効果に違いがでてくるのでしょうか？



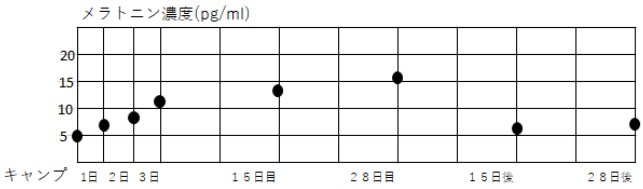
１泊２日キャンプよりは、１週間以上キャンプの方が効果はありそうです。なぜなら、短いキャンプだと多少我慢ができるので、本来の体験ができないからです。例えば、生活習慣では、勝手が違うのでトイレを我慢したり、夜遅くまで起きていたり、好き嫌いで食事を食べなかったり…。

しかし、１週間以上のキャンプになるとそうもいかなくなります。トイレにも行かなければならないし、日中 体を動かしているので夜は早寝、早起するようになります。また、運動してお腹がすくので、ごはんもたくさん食べるようになります。長期のキャンプでは、生活が規則正しくなるように思われます。

１か月の長期にわたるキャンプを実施している企業があります。このキャンプは、家庭生活や学校生活で乱れた子どもの生体リズムをとり戻し、子ども本来の笑顔と元気なからだと心を再構築することを目的にしています。そんな１か月の長期キャンプの「睡眠」に関する調査研究を紹介します。（長期キャンプが子どもの生体リズムに及ぼす生化学的影響　野井真吾　発育発達研究 第 ５８号）

睡眠は、子どもにとって重要であり、睡眠不足や昼夜逆転などの状況に陥ると、慢性疲労状態になり、不登校にもつながる恐れがあります。睡眠やその根底にある生活リズムの乱れを改善することは、現代社会において喫緊の課題と言えます。

この研究では、睡眠導入ホルモンとして、生体リズムの指標と考えられている「メラトニン」をキャンプ前、キャンプ中、キャンプ終了後に唾液で調べました。（※メラトニン濃度が高いと睡眠の質が高いと言われています。）その結果、メラトニン濃度は、キャンプ開始後３日目までの期間に急増して、その後も最終日まで増加したという報告でした。また、メラトニン濃度は、キャンプ終了後に減少しはじめ、２週間後には、キャンプ前の水準に戻ったということです。実際子どもは、キャンプ中しっかり睡眠をとることができるようになったということです。



これらの結果から、日中に太陽の光を浴びながらさまざまな活動を行ない、夜は早く寝るというキャンプ生活は、睡眠を含む生活リズムを整えるのに適していると考えられます。人間のからだは自然のサイクルに合わせた生活を営むようにできています。だから本来の生活サイクルをおくることで、乱れた生体リズムを整えていくのです。

今年の夏は、長期キャンプへの参加は難しいと思いますが、自然の中でゆったりと過ごせるよう、少しでも長いキャンプに参加していただければと思います。

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和『シニアボランティアの力』

千葉自然学校では、築200年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！



初夏のろくすけは万緑の中、クワやグミが実をつけ、ウメの収穫もまもなくです。春先に植えたイチジクの苗木も元気に育ち、ヤックス自然学校主催のキャンプで植えたトマトやサツマイモも、粘土質の厳しい土壌環境の中で頑張っています。

「ろくすけ」に来たらおやつも食事も地元調達、知恵と技を使って思いっきり自然を満喫する体験ができる場にしたいと整備しています。

これらの整備活動の大半は、ろくすけの会をはじめＴさん、２人のＳさんなどなど、多くのシニアボランティアの皆さんによって支えていただいています。

母屋の腐食したトタンの張替作業も、千葉シニア自然大学６期生の有志で７月にやっていただけることになっています。

このように「ろくすけ」は、退職後のシニアが家にこもるのではなく、様々な力量を発揮できる場となり、それによって子どもや若い家族が日帰りや宿泊で自然を体感し、自然と暮らす知恵や技、生きる力を培う場になって行くことを願って活動しています。お陰様で、少しずつですが道筋ができつつあり、宿泊利用のリピーターも増えてきています。

次の目標は、活動が持続してゆくようにすること。「夢は老いることなく」です。

（文：遠藤陽子／サニー）

千葉シニア自然大学 ～「2023年度受講生は43名で講座開始」～

昨年度に引き続き、今年度も４月より講座をスタートしました。

昨年度から開催頻度を月１～２回に見直し、より専門性を高めたＡコース「ちばの里山里海の自然講座」に１８名、Ｂコース「天文・地球（気象・地震・地質・生きもの）講座」に１１名、月１回開催のＣコース「自然と俳句講座」に１４名の総計４３名の受講生が集まりました。

この他に卒業生が聴講生としてＡコース、Ｂコースの希望する講座を開催の都度聴講する聴講生が数十名（延人数）参加します。

事務局はこれまでのメンバーが１名減り、５名体制で３コースを担当します。

各コースとも順調に授業が進んでおり、野外授業も天候に恵まれ、また受講生も段々と打ち解けあい、新たな仲間作りにと楽しく受講しているようです。

恒例となっている５月の干潮時間帯に実施する大房岬とその近くの原岡海岸での「森と海のセラピー・ウォーキング入門」講座は、快晴に恵まれ、総勢２７名が森のウォーキング、ハンモック体験、干潮時刻の原岡海岸のタラソセラピー体験などで、童心に戻った爽やかな体験に笑顔が絶えませんでした。

原岡海岸の裸電球の連なる桟橋は、ＴＶでも取り上げられた効果からか、若いカップルが集まる人気の場所になっており、シニアの皆さんも笑顔で写真撮影していました。

まだまだコロナ禍の不安もありますが、順調に今年度の授業が進んで行く事を願っています。

（文・写真：事務局　吉岡章次）



原岡海岸でのタラソテラピー風景

主催事業現場レポート

大人

大房岬自然の家主催事業　房総を歩こう
「鎌倉ハイキング」

3/19(日)　鎌倉市　鎌倉アルプス
鎌倉アルプスハイキング　鎌倉街中散策　お土産タイム



３月１８日（土）開催予定でしたが、雨天延期のため１９日（日）に鎌倉ハイキングを実施致しました。お天気にも恵まれ、集合の北鎌倉駅はハイカーで大賑わい。桜やモミジが芽吹き出す街中を抜け入山口へ…。心配していた足元のぬかるみもさしたる影響もなく、景色を楽しみながら歩くことができました。

下山後は永福寺跡や頼朝の墓等を巡り鶴岡八幡宮へ。解散は鎌倉駅の予定でしたが、買い物や自由散策の希望もあり、八幡宮で解散としました。次回は１０月以降のの開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

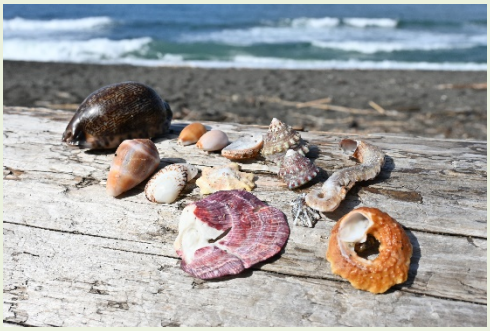
（文：佐藤昭仁／アリ）



見晴らしの良い十王岩でのショット。
アクセスも良い
鎌倉アルプスハイキングです。

大房岬 SDGs 体験活動
「SDGs ビーチコーミング」

昨今社会的に注目されている「SDGs」。学校の授業でも企業研修でも取り上げられていて、我々の生活にも関わるキーワードになっているSDGsの現状や課題を、体験を通して学べるプログラムを大房岬で実施しています。



いろいろな種類の貝があります。



砂浜で漂着物探し！どんなものを見つけられるかな？

海辺の活動ではビーチコーミングをして様々な漂着物を探して拾い集めます。大房岬の浜に打ちあがったそれらはどこから来たのか、何が由来でどうしてここにあったのか、という面白さを切り口に、日本と世界の海の課題について考えてみます。

小学生から大人まで、たくさんの方に体験いただいています。

【お問い合わせ･お申込み】
南房総市大房岬自然の家　TEL:0470-33-4561　E-mail:taibusamisaki@chiba-ns.net

≪受託・ネットワーク事業≫

『聖ドミニコ学園　自然体験事業サポート』

３月４日（土）～５日（日）に「聖ドミニコ学園小学校　親子星空キャンプ」を、君津亀山青少年自然の家で実施しました。初日は、秘密基地づくりをした後、夕食に野外炊飯でカオマンガイを作って食べました。そして夜はお待ちかねの星空観察ということで、プラネタリウムでその日見られる星を学んだあと、施設の屋上で星空観察を行いました。曇りでしたが、雲の合間から冬の明るい星たちを観察したり、望遠鏡を使って月の観察をしたりすることができました。



２日目は、初日に作った秘密基地の発表会を行い、昼食はドラム缶でピザを焼きました。生地の硬さやトッピングの配置などを班ごとに試行錯誤し、美味しそうなピザがたくさん焼きあがりました。

普段の生活とは違う、自然の中での特別な１泊２日を過ごすことができました。

（文：坂井遥／うつぼ）

淑徳大学　集中講義ＮＥＡＬリーダー養成講座の４日間





淑徳大学総合福祉学部 白井伊津子教授と当法人 久保田康雄理事長のご縁から、春休み集中講義ＮＥＡＬ（自然体験活動指導者）リーダー養成講座を開催することができました。

整備された美しいキャンバス内で２０名の学生を対象に、当法人所属のＮＥＡＬコーディネーター４名がそれぞれ「ガイダンス」「青少年教育における体験活動」「自然体験活動の特質」「対象者理解」「自然体験活動の指導と技術」「安全管理」「認定試験」といった授業を受け持ちました。そしてＮＥＡＬリーダー希望者全員が認定試験に見事合格することができました。

今回、自然体験活動の技術では、キャンバス内で実際にテント設営や前代未聞の火起こし体験をしてもらいました。学生からの感想には、設営したテントで宿泊したり、火起こしした火で野外調理したり、キャンプがやりたいという声も上がっていました。

（文：小松敬／ボクサー）

千葉県内私学女子中等部チームビルディング指導

一昨年に事業の下見や打合せを行っていた事業で、コロナ感染の影響で延期や中止が続いていましたが、今年４月初旬にようやく事業を行うことができました。

令和５年４月１８日（火）東京都江東区夢の島公園内にあるＢｕｍＢ文化館アリーナで、中学校へ入学してきた女子２００名を対象に、午前・午後の４時間を使ってアイスブレイクゲームで体と心をほぐしたり、２０グループによるイニシアティブゲーム（課題解決型ゲーム）でお互いを知ったりと、終始和やかな雰囲気で元気よく体験活動を終えることができました。ゲーム体験を通じてグループでの役割やアイデア出し、問題解決を通じて、徐々にグループからチームへと変化する様子を、担任の先生や教務主任、副校長も身体で感じ取れたようです。コロナ禍で多くの体験活動や人とのコミュニケーションの機会を奪われてしまった人間が、少しずつでも平穏な時間が過ごせるようになってもらいたいと切に願います。

「次回はぜひ！自然豊かなフィールド（南房総市大房岬自然の家、大房岬自然公園、君津亀山青少年自然の家）で実施しましょう。」と、学校・旅行会社に提案させて頂きました。

（文：小松敬／ボクサー）

～ きみかめ便り ～

千葉県より指定管理を受け、「君津亀山青少年自然の家」の管理・運営を行っています。清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ、最大宿泊者数300人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり、カレーや石窯ピザなどの野外調理、思い出のクラフト作成など47種類ものアクティビティをご用意しております♪



千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家　　所長　庄司達哉

「きみかめアドベンチャープログラム(KAP)はじまっています」





昨年度からきみかめの利用者向けアクティビティとして「きみかめアドベンチャープログラム(KAP)」を導入しました。KAPはどんな活動かと言いますと、集団やグループの人間関係づくりを行う活動です。ファシリテーターとよばれる指導者から様々な課題がグループに与えられます。大切なのは、早く・的確に・効率的に課題を達成すること…ではありません。課題達成に向かう途中で得られた学びや気づき、他者との共感や協力、課題を達成したことで味わえるグループ一体の達成感などにより、個人やグループが成長することを促す活動です。

写真の模造紙に書かれたイラストは、KAPの活動を通して得られた学びや気づきを見える化したものです。紙の真ん中に「どんなチームにしたい」、「理想のチームにするためにできること」を書いています。実施ご希望の方は、是非お問い合わせください。

きみかめ掲示板

【イベント報告】　5月21日(日)　森っ子レンジャー①～森の宝探し～



今年度1回目の森っこレンジャーは、みんなで「宝探し」！きみかめの森の中に隠されたお宝をみんなで協力して探しました。初めましてのお友達同士で最初は緊張している様子でしたが、活動を通して自然とお互いを助け合って協力し合う様子が見られました。

みんな無事にお宝 GET！またきみかめの森で会おうね。

長瀬詩緒里(ちゅん)

【自然情報】　夏に向けて



梅雨に入りいよいよ夏が近づいてきました。きみかめの森もたくさんの生き物たちが動き出し、少しずつ夏の訪れを感じるようになりました。きみかめの周りを見渡すと、ツバメが飛び、梅の実が大きく実り、カエルの鳴き声まで聞こえるようになりました。生き物たちはこれから夏に向け活発に活動し始め、姿をよく見かけるようになります。

皆さんもぜひ夏に向けて活動している生き物たちを探してみませんか？

小林奎太(しゃり)

～きみかめの森に生息する面白い生き物たちを紹介！！～

きみかめ生き物図鑑



黒く、細長――く、ウニョウニョした生き物ヤマビル。人から血を吸う嫌われ者というイメージが大きいと思います。しかし、ヤマビルはとても面白い生き物です！

ヤマビルは熱と二酸化炭素に敏感に反応します。しかも、二酸化炭素を感知できる距離は約 1.5～2mくらい。あの小さい体で 2m の範囲を感知できるんです！体の構造も人と同じように、食道、胃、腸、肛門まで存在しています。

きみかめに来所された方々に「ヒルは木から落ちてくるの？」と聞かれることがあります。これまでは「ヒルは木から落ちてくる」と言われていましたが、実は落ちてきません！地面から足元へ上り、腰や首元まで登ってくるのです。吸血する時もどこでも吸血するのではなく、皮下脂肪の少ない場所をじっくり探し吸血するのです。

嫌われ者のヤマビル、見方を変えるととても奇妙な生き物です。好き嫌いはあると思いますが、普段とは違う見方で周りの自然や生き物に注目してみるのはいかがでしょうか？

小林奎太（しゃり）

「雨を楽しむ」



雨がたくさん降る季節になりました。雨の日といえば「ジメジメして嫌い！」「外で遊べないからいやだ！」という人が多いのではないでしょうか？

しかし、自然界では雨は必要不可欠な存在で、生き物たちに生命を与えてくれます。皆さんも雨の日に思い切って、自然の中に出てみてはどうでしょうか？

もしかしたら雨の降る日にしか感じられない、体験や学びがあるかもしれません。

耳をすませば、雨が降る音や、雫の音、水面に落ちる音など沢山の音が聞こえてきます。

音以外にも雨の香りや、土の匂い、雨でぬれた葉っぱや花の色など、五感を使って自然を感じ楽しむことが出来ます。

雨の日だからこそ五感を使って自然を感じてみましょう！

小林奎太（しゃり）

～ たいぶさ便り ～

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」「大房岬自然公園」の管理・運営を行っています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方々が訪れます。



・南房総市大房岬自然の家
・千葉県立大房岬自然公園

南房総市大房岬自然の家　　所長　神保清司

最新の調査によると大房岬周辺の海中では、「磯焼け」によってアラメやカジメなどの海藻が 90 パーセント消失したようです。原因は複雑そうですが、おそらく成長期に海水温度が下がらないことと、海藻を食べる魚の数が増えていることが大きく影響しているようです。大房岬自然の家では、手洗いせっけんやヤシの実洗剤で有名なサラヤ株式会社、岩井富浦漁協、千葉県館山水産事務所などと連携をしながら富浦藻場再生プロジェクトを立ち上げます。具体的には海藻を食べてしまうアイゴなどの魚の天敵であるアオリイカを増やすため、卵を産み付けやすい産卵礁をマテバシイの枝で作成して海に沈めたりします。これらの活動を地域の中学生と行う予定です。磯焼けによる海藻減少によってサザエやアワビなどの海産物は大打撃を受けています。小さなチャレンジでも長く続けることで変化を起こしたいと思います。



千葉県立大房岬自然公園　　公園長　山口亮介

公園の中央には湧水池があり、毎年カエルやサンショウウオが産卵します。そしてそれを狙うヘビやフクロウ、アナグマなども池に集まり、生きものの気配が濃厚なエリアです。そんな湧水池、今年はアズマヒキガエルの産卵が見られませんでした。例年池が真っ黒に見えるほどのオタマジャクシが卵からかえりますが、今年は全くのゼロ。こんな事は初めてです。

森が荒れてきたせいなのか、外来種のカメやカモのせいなのか、こんな小さなエリアの生態系もゆっくりと崩れてきてしまっています。

調査や対策、公園職員の踏ん張りどころです。



株式会社　体験と健康　　料理長　松田光央

（南房総市大房岬自然の家食堂、千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂　運営）

コロナ禍も落ち着きはじめて、君津亀山青少年自然の家も大房岬自然の家も学校やボーイスカウトなどの利用が戻りつつあります。ですが、両施設の食堂に設置しているパーテーションは当面は継続していこうと思います。ご利用いただく皆様にはご不便おかけいたしますが、ご協力をお願いします。

話は変わりますが、ゴールデンウィークに公共駐車場で炭焼きスペアリブを販売いたしました。お客様には「おいしいです。」「いつも売っていますか？」などの声をかけていただきましたので、今後も機会を見て販売していこうと思います。見かけたときはご利用ください。





taibusagram

Taibusa-misaki

大房岬の
とっておきの瞬間
をご紹介します！





いいね！666件



雨が降ると、自然の家の玄関に置いている丸太にプルプルのキクラゲが出現します。空気が湿っているときだけ顔を出して、晴れているときは丸太の割れ目に閉じこもっているようです。雨降る大房岬は他にも違う顔を見せてくれます。普段は１段下の池にいるモリアオガエルが自然の家まで遊びに来たり、道路には地面にしみこまなかった雨水が川を作ります。

大房岬ではビーチコーミングや森づくりを通じてSDGsを活動的に学べるプログラムを子供たちに体験してもらっています。その中で伝えたいテーマの一つに「水の循環」があります。蛇口をひねればきれいな水が出て、水に困ることはめったにない日本では感じづらい「水による恩恵」。それを雨の日の散歩で感じることがあります。まずは小さな自然の発見から、皆さんも雨の日に出かけてみてはいかがでしょうか？

＃雨　＃SDGs　＃このキクラゲは食べられません

伏谷海斗（ふうせん）

たいぶさ岬掲示板

イベント報告

「ツリーイング＆森あそび」

新緑の中、ツリーイング＆森あそびに集まった子どもと１日中登りました。「ツリーマスタークライミングアカデミー」の講師の方々に登り方を教わりスタート。好きなロープを選び、自分がゴールと決めたところまで頑張るスタイルです。ハンモックも設置しリラックスタイムも大好評でした。仲良くなった友だちと鬼ごっこがはじまり、いい雰囲気のなか１日があっという間に過ぎていきました。

またみんなで登りにおいで！

佐藤昭仁（アリ）



イベント報告

「岬のナイトツアー」

5月3日に岬のナイトツアーを実施しました。普段あまり歩かないような暗闇の中をガイドと一緒に探検！要塞の中にコウモリがいないか覗いたり、木にフクロウがいないか、アナグマがごはんを求めて歩いていないか探しました。はじめはライトなしでは歩けなかった子も、徐々に慣れていき最後には月あかりのみで歩けるようになりました！

清水旭（くま）



生きもの紹介

変装の大名人「ナナフシモドキ」

枝に足が生えているような昆虫です。公園には「ナナフシモドキ」という種類が多く見られます。実はこのナナフシ、メスだけで増えることができるため、オスは全国でも十数例しか確認されていません！オスはメスよりも小さく、濃褐色で胸から腹にかけて白い線があるそうです。ぜひ、見つけたらビジター職員にも教えてください。

清水旭（くま）



≪ちば・体験活動ネットワーク≫

千葉を元気にする会員校をご紹介！

千葉自然学校は、**ネットワーク型自然学校**として
『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、**『千葉自然学校ネットワーク会員校』**としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。
県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

会員校紹介特別編！理事 横山清美さんの活動

うらやす三番瀬感謝祭 2023.6.4 に参加してきました！



理事の横山清美さんが事務局を務める「**浦安三番瀬クリーンアップ大作戦実行委員会**」（1999 年～現在）主催の「**うらやす三番瀬感謝祭**」にボランティアとして参加、お話をお伺いしてきました。

毎年 6 月環境月間にはうらやす三番瀬感謝祭として大規模なクリーンアップ活動を実施しており、地元の方々や近隣の中高校生、企業、シニア団体、ボーイスカウトなど今年は約 700 名の方が参加されました。当日は台風が過ぎ去った後の心地よい五月晴れ。台風の翌日ということもあってビニールや缶ごみの他、枯草や枝などが多く漂着していましたが、参加の皆さんで協力して可燃ごみ 140kg、不燃ごみ 90kg と大量のごみを回収することが出来ました。



クリーンアップ活動のゴールは浦安市三番瀬環境観察館。クリーンアップ活動終了後は、環境学習館スタッフによる干潟の観察会やカニ釣り体験などが開催され、カニやヤドカリなど磯の生き物と触れ合える場がありました。

事務局の「浦安三番瀬を大切にする会」は 2003 年設立。1 月を除く毎月第一日曜日にミニクリーンアップ活動として日の出海岸の清掃活動や、浦安市役所や新浦安駅前プラザ マーレにて展示用の水槽設置、生物管理などを行っています。



副実行委員長の大野伸夫さんは「かつては漁業の町であったが環境汚染や干潟埋め立て計画により海と市民が関わることが少なくなってしまった。海は浦安の資源なので、クリーンアップ活動や干潟の観察会を通して市民の方に浦安の海を、河川を少しでも身近に感じて欲しい」とおっしゃっていました。また「ごみを拾う人は捨てない。捨てる人は拾わない。拾う人を増やして“捨てない”という考えを持ってほしい」という話も印象的でした。

感染症の間もクリーンアップ大作戦活動は対策して継続開催、今回で計２５回目の開催となったこのイベント。市民、団体同士の声掛けによりここまで大きく継続的に実施出来ているそうです。老若男女楽しそうに参加している様子が見られ、市民の憩いの場になっているようです。この海を愉しむ活動の輪がもっと広まり、より海に親しんだ街になって欲しいと思います。



浦安三番瀬美化活動に興味がある、クリーンアップに参加してみたいなど
お問合せは、HP「浦安三番瀬を大切にする会」で検索！
または、同会事務局長：横山清美さん(TEL：047-353-8134)まで

取材：山崎大地（だいすけ）

合同会社くじらのもり
白井 健さん、芙季子さん

自然体験



千葉自然学校のおしどり夫婦ネギ＆ふっきーが独立してアウトドア活動の会社を立ち上げました！みなさん応援よろしくおねがいします♪

合同会社くじらのもりの白井と申します。１３年間千葉自然学校の職員として自然体験やアウトドア、地域の観光に関する仕事をしてきました。これまでの経験を生かし、２０２３年３月に妻と共に「合同会社くじらのもり」として法人を設立しました。

海の豊かさと南房総の食文化を象徴する「くじら」と、南房総の里山から深い山までを表す「もり」を法人の名前としてつけました。自然の中で、共に遊び、憩い、笑い、感謝し、学ぶ体験を通して、人も自然も幸せな世界を目指しています。



【くじらのもりのミッション】

●人：ひとりひとりが自然体でいられ、幸せを実感できること
●暮らし：人と自然が調和し、命を大切に丁寧に暮らすこと
●地域経済：南房総ならではの自然を活かした経済循環が生まれること
●教育：自然の教育力を活用して、子どもたちの個性を輝かせること
●コミュニティ：心がつながり、楽しさも悩みも分かち合う場ができること

上記ミッションを掲げ、現在は、
・親子向けのキャンプイベントの企画実施
・地元小中学校への自然体験の提供
・観光コンテンツとしてのアウトドアプログラムの開発や教育旅行の受け入れ
・自然体験指導者としての人材派遣
などを中心に事業を行っています。

私自身は、南房総市で生まれ育ち、幼少期からこの地域の自然の中で遊びまわったことが原体験です。この地域の自然の魅力を伝え、地域が元気になってほしいという想いで今の仕事に取り組んでいます。

千葉自然学校を一旦離れましたが、これからは、よりフットワーク軽く、地域が抱える課題に対応できるよう、たくさんの方の声を聞き、事業にしていきたいと思っています。

また、私のようにこの地域の自然の魅力を感じ、地域に誇りを持てるような人づくりを行っていきたいと思います。

子ども達が育ちこの地域に残りたい、戻ってきたいと思えるようなきっかけを作っていきたいと思います。



取材：山口亮介（こめ）

【北総エリア】

•ワイズスノー＆アウトドアスクール •NPO 法人佐倉みどりネット •一般社団法人千葉県環境財団 •千葉伝統郷土料理研究会 •さんむアクションミュージアム
•一般社団法人千葉県観光公社 •ヤックス自然学校（株式会社千葉薬品） •林造園土木株式会社 •株式会社 HMC 東京旅行事業部 •有限会社銚子海洋研究所
•ピーちゃんクラブ•ぬく森くらぶ •食と農の体験工房「よもぎ館」 •国民宿舎サンライズ九十九里 •「わたしの田舎」谷当工房 •スコープジャパン株式会社
•ちば千葉国際コンベンションビューロー •東京クラシッククラブ

【上総エリア】

•Live Stock •上総自然楽校 •千葉県立内浦山県民の森 •NPO 法人大山千枚田保存会
•NPO 法人市津•ちはら台自然学校 •特定非営利活動法人ちば里山センター •NPO 法人里山会 •株式会社かずさアカデミーパーク

【南房総エリア】

•一般社団法人森のようちえんはっぴー •NPO 法人たてやま•海辺の鑑定団 •岩井民宿組合
•白浜オーシャンリゾート •株式会社ちば南房総（道の駅とみうら 枇杷倶楽部、道の駅三芳村 鄙の里、
道の駅おおつの里 花倶楽部、道の駅ローズマリー公園、道の駅富楽里とみやま） •千葉県立館山野鳥の森
•千倉町民宿組合 •千倉オレンジセンター •合同会社くじらのもり

一緒に千葉を元気にしませんか？
会員校募集中！
【お問い合わせ先は裏面をご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

小林奎太（しゃり）　千葉県立君津亀山青少年自然の家



京都産まれ京都育ち。幼い頃から自然の中で遊ぶことが大好きで、キャンプ、虫採りなど常に自然と触れ合ってきました。今では魚釣りが大好きで、休日にはほぼ釣りをしています。

私は、釣りから自然の素晴らしさ、自然の中で遊ぶ楽しさを感じました。訪れた方々に自然の中で感性を育てて欲しいと思っています。きみかめの森の中で自然を沢山感じ、一緒に新たな発見や疑問を見つけましょう！！



きみかめの森で仲良くなろう

【資格】
・プロジェクト・ワイルドエデュケーター・潜水士・栽培漁業技術検定１級

【得意分野】
アウトドア、釣りについて考えること

【好きなこと】
魚釣り/自然の素晴らしさを感じること



千葉自然学校のミッション



体験活動を通じ
・だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
・地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
・ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす

千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの修復に向けて～

そろそろ築 200 年になろうとしている古民家「ろくすけ」。これまで多くの子どもやシニア世代の自然体験・地域交流の場として使用されてきましたが、母屋の屋根の損傷が著しくなってきました。その他、外壁なども劣化が目立っています。今までも皆さまからの協力で修復を続けてまいりましたが、再度ご協力のお願いになります。皆さまからのご支援をお待ちしています。（一口 3,000 円）

▼振込先（郵便局/払込取扱票を使用）
振替口座　00170-5-259431
加入者名　特定非営利活動法人 千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先（銀行）
千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275
特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所（下記）へお知らせください。



発行：**NPO法人 千葉自然学校**
■千葉事務所　〒260-0015　千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル７階
電話：043-227-7103／FAX：043-202-7237
ホームページ：http://www.chiba-ns.net　メールアドレス：info@chiba-ns.net